

## ◎保育の計画の編成と実施に関する評価

A:大変よい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

項目	内容	評価	意見・改善策
保育目標について	(1) 保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	A	保育者との安定した関係を築き、安心して過ごせるようになることを重点とし、目標を設定している。
	(2) 目標は、施設や地域の特色を生かしているか。	A	園舎や近隣の公園を利用、各部屋の使い方を担任同士で事前に話し合う等工夫と努力をしている。
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	B	基本的には、反映されていると言えるが、社会情勢や小学校の現状等、情報収集、情報交換から得られた事を反映し目標を柔軟により適切なものに変えていく必要がある。
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしているか。	A	反省点を具体化して新たに改善点を意識し保育を行った。
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	B	職員会議の中で、通達した、いつでも閲覧できるようにしている。 パート保育士等他にも十分伝える努力と工夫が必要。
教育・保育について	(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成されているか。	A	子ども一人ひとりの発達の段階や興味・関心、日々の様子を丁寧に観察し、その実態を把握した上で指導計画を作成しています。実際の生活や遊びの中での姿に即した、適切な指導計画となっています。
	(2) 教育保育要領に基づく指導支援を適切に行っているか。	B	保育要領の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や興味関心に応じて、環境構成や関わり方を工夫するなど、概ね適切に実施できています。
	(3) 環境の構成を意識した保育の過程を常に工夫しているか。	B	同上
	(4) 素材・用具を適切に活用しているか。	B	子どもの発達や興味に応じて、素材や用具を適切に活用できています。日々の保育の中で安全性や多様性にも配慮しながら取り入れています。子どもの創造性、探究心を引き出すような工夫の余地もあると感じる。今後は、より多様な素材の活用や環境構成の工夫を通じて、より豊かな保育活動を目指していきたいと考えています。
	(5) 1日の流れ（デイリープログラム）は現行でよいか。	A	子どもの生活リズムや発達に配慮された、無理のない流れとなっており、現在のデイリープログラムに大きな問題はありませ
	(6) 評価結果を基に保育の改善に努めているか。	B	日々の保育の振り返りや定期的な評価を通して、子どもの姿や保育内容を見直し、改善に努めています。
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。	A	子どもたちが無理なく楽しめるような内容となっており、保護者との連携も図られています。今後も子どもの負担や園全体のバランスを見ながら、必要に応じて見直しを行っていきます。
	(2) 行事のねらいを実施に生かしているか。	A	年長担任を中心に行事のねらいを明確に掲げ、職員間で共有しています。子どもたちの気持ちや発達段階にも十分に配慮しながら準備・実施を進めており、ねらいが活動にしっかりと反映されています。行事を通して子どもたちの意欲や成長につながるよう、今後も丁寧に取り組んでいきます。

	(3) 評価・改善の体制をとっているか。	A	行事終了後には職員間で振り返りを行い、実施内容や子どもの様子を共有しています。その中で良かった点や課題を明確にし、次年度に向けた改善につなげる体制が整えられています。今後も継続的に見直しを行いながら、より良い行事の実施を目指していきます。
	(4) 保護者の意見を取り入れているか。	B	年に1度実施しているアンケートを通じて、保護者から行事に関するご意見や要望をいただいています。すべての要望に応えることは難しい場合もありますが、可能な範囲で取り入れ、保育の質の向上や行事の見直しに活かしています。今後も保護者との連携を大切にしながら、よりよい保育の実現に努めていきます。

◎全体計画に対する自己評価

A:大変よい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

項目	内容	評価	意見・改善策
教育・保育について	(1) 園の特色を生かした教育・保育をしているか。	A	温かくアットホームな雰囲気の中で一人ひとりに寄り添った教育・保育を行っています。限られた空間だからこそ、子ども同士や保育士との距離が近く、きめ細やかなコミュニケーションが可能です。
	(2) 子どもの心と体の健康を支援しているか。	A	小規模ならではの柔軟な環境づくりを通じて、異年齢児同士の交流や家庭的な関わりを促進し、思いやりや協調性を育てています。子どもたちの豊かな心と健やかな成長を支援出来ている。
	(3) 「食を営む力」の基礎を培う食育の計画・実施になっているか。	B	「食べることの楽しさ」や「食への関心」を自然に育めるよう工夫しています。日々の給食では、メニューをしっかりと伝え食材や季節に関する話を取り入れながら、関心がもてるようにしている。野菜の栽培や収穫体験、簡単なクッキング保育を通して、食べ物ができる過程や感謝の気持ちを学べるようにしています。
	(4) 小学校との接続を意識した教育・保育の内容になっているか。	B	当園は小規模ですが、同じ法人のグループ園3園で年長児の交流会を年間5~6回実施しており、合同で行う活動では20名以上の子どもたちが一緒に過ごすことで、集団活動への慣れや社会性を育てています。小規模園ならではの丁寧な関わりと、グループ園との連携による多様な経験を組み合わせ、小学校への移行が円滑に進むよう取り組んでいます。小学校と直接の交流の場、先生通しの連携の強化が課題である。
安全・衛生について	(1) 事故防止・事故対応は適切にできているか。	B	日々の保育の中で安全管理を徹底しております。職員間での情報共有や、定期的な安全確認、危険箇所の見直しを行いながら、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいます。ただし、小さなけがが発生することもあり、中には不注意が要因と考えられる事例も見られました。これらについては、発生後すぐに状況の振り返りと対応策の共有を行い、再発防止に努めています。今後も、職員一人ひとりの安全意識の向上を図り、保護者への丁寧な説明と連携を大切にしながら、より安全な保育環境づくりに取り組んでまいります。

	(2) 災害への対応について、備えは出来ているか。	B	月に1回の避難訓練を実施しており、子どもたちにも「自分の身を守る力」を育むことを目的に、年齢に応じた指導を行っています。火災、地震、不審者対応など、さまざまな想定に応じた訓練を計画的に実施しており、職員も実践を通じて対応力を高めています。各職員の役割分担については、より明確にし、非常時に誰がどの動きをするのかを即座に把握・行動できる体制の強化が今後の課題と認識しています。今後はマニュアルの見直しや定期的な職員間の共有を徹底し、全員が自信をもって動ける体制づくりに努めてまいります。一方、会社全体としてBCPの作成と災害時の対策についても整備を進める必要がある。
	(3) 施設内・外の環境は、衛生的に管理されているか。	B	施設内外の環境については、衛生的な管理に努めておりますが、現時点では一部にばらつきが見られ、常に安定した状態を保つには至っていないのが実情です。決められた清掃や衛生管理の手順が徹底されていないケースもあり、課題として認識しています。清潔で安心できる環境を保つことは、子どもたちの健康と安全に直結する大切な要素であるため、園全体で取り組みの質を高めていきたいと考えています。
子育て支援・研修	(1) 保護者・地域の子育て家庭への支援は適切に行っているか。	A	保護者への支援について、保護者に対しては、日々の送迎時に子どもの様子や園での過ごし方について丁寧にお伝えし、保護者との信頼関係の構築に努めています。また、子育てや発達に関する不安や悩みを気軽に相談できるよう、いつでも声をかけやすい雰囲気づくりを心がけており、個別の相談にも柔軟に対応しています。また、地域に対しては、子育て支援の一環として、外部講師を招いた講演会や子育て講座を企画し、地域の子育て家庭にも広く参加を呼びかけています。案内については、地域の回覧板を活用するなど、より多くの方に情報が届くよう工夫をしています。今後も浸透してくよう継続性をもって取り組む。
	(2) 職員の研修は適切に行っているか。	A	職員がそれぞれの役割や関心、必要に応じて、できるだけ偏りなく研修を受けられるよう配慮しています。個々の職員に合った内容の研修を選べるようにし、スキルや知識の向上につながるよう努めています。また、職員が無理なく研修に参加できるよう、勤務の調整についても周囲で協力し合い、参加しやすい環境づくりにも力を入れています。こうした取り組みにより、学びの機会を大切にしながら、全体の質の向上を図っています。
目標達成について	(1) 自己評価を適切に行っている。	B	目標の対する具体的な検証や評価が曖昧なまま進んでしまっています。今後は目標と実践内容を一つひとつ対応させ振り返るよう取り組みを強化していきたい。
	(2) 重点目標は達成できたか。	B	出来ていない事項もあるため、達成できたとは、言い難い。未達成の部分が園の弱みでもあるため、目標に掲げ取り組む。

評価者：園長、主任、副主任

職員による自己評価

	令和6年度を振り返り評価できるところ
クラス運営の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任の退職と次期主任の病休で不安が広がり実質主任不在が続く中、各クラス主担任同士で良く話し合いの時間を持って連携出来ていた。</li> <li>・見通しを持って過ごせるよう週案会議等を通して話をするよう心がけていた。</li> <li>・人的な不足があったが、連携して良い関係を築くことが出来ていた。</li> <li>・可能な限り晴天の日には、散歩に出かけるなどの戸外活動を意識した。</li> <li>・出来ないと考えることなく、出来るようにするためにどうしたらよいかを考え工夫しながら保育をしていった。</li> <li>・パート保育士、支援員も協力してもらい足りない時間を補ってもらえた。</li> <li>・大きな怪我もなく安全が保たれたと評価出来る。</li> </ul>
園全体の評価	<p>全体的に、保育士自身の自己評価は良かったと言える。自己評価を行うことで園全体の保育や運営について改めて考えるきっかけとなった。保育に関しては、一人ひとりに丁寧に対応し、個々の発達に応じて保育をすることは園全体でできていた。また主体性を尊重する保育も行っているが、集団で過ごす中でうまくいかない部分もあった。また、小学校の連携については、未だ不十分なところもあり課題としている。グループ園で連携し、3園合同の取り組みを推進中である。段差のない就学に向けて、積極的に取り組む必要がある。そういったことも含め、職員間で話し合いを重ねながら、子どもたちが過ごしやすい環境を整えていきたい。また保護者とも引き続き密に連携を取りながら、保護者も子どもたちも安心して園生活を送れるよう信頼関係を深めていきたい。</p>